

ドイツ学術情報 (2014年4月～6月)

< 目次 >

- 1 ピックアップニュース …p1
 - ① エラスムス計画の流動性が過去最高規模に
 - ② 欧州の青少年にさらなる国際交流の場を提供/エラスムス・プラス
 - ③ 連邦報告書「研究と技術革新 2014」

- 2 その他のニュース …p3
 - ① 外国の大学と合同で修了可能なドイツの大学
 - ② ドイツにおけるボローニャ・プロセスの成果
 - ③ ドイツ奨学金の支給者数が 42 パーセント増加
 - ④ 2014 年アレクサンダー・フォン・フンボルト・プロフェッサーシップ授賞式
 - ⑤ 2015 年第 1 回アレクサンダー・フォン・フンボルト・プロフェッサーシップは女性研究者へ
 - ⑥ グローバル・リサーチ・カウンシルを北京で開催
 - ⑦ ドイツ学術交流会 (DAAD) はロシア及び東ヨーロッパとの学術交流の意義を強調

1 ピックアップニュース

① エラスムス計画の流動性が過去最高規模に

昨年、欧州連合のエラスムス計画の支援を受けたドイツの学生、大学教員、職員等は 3 万 9 千人を上回り、過去最高に達した。ヴァンカ連邦教育研究大臣は、「欧州の若い世代にとって勇気づけられる兆候」だと語った。

ドイツ学術交流会 (DAAD) の調査によると、昨年の 2012/2013 年度において、エラスムス計画により、欧州の 33 カ国で、学士、修士課程の一部を履修、またはインターンシップを修了した学生は約 3 万 5 千人で、過去最高であった。その数は前年度に比べ、およそ 2 千人多かった。これ以外にも、昨年度エラスムス計画により外国の大学で授業を行った、または外国での研修に参加した大学教員、職員等は 4 千人を超える。

なお昨年、外国のパートナー機関からエラスムス計画により、留学、教育、研修のためにドイツの大学に来た者は 3 万人を超えた。

<http://www.bmbf.de/press/3585.php>

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2014/25936.de.html>

② 欧州の青少年にさらなる国際交流の場を提供/エラスムス・プラス

ヴァンカ連邦教育研究大臣、バシリウ教育担当欧州委員、シュヴェージヒ連邦家族・高齢者・女性・青少年大臣、及びレルマン州文部大臣会議議長は Erasmus+ (エラスムス・プラス) 計画の開始を祝った。

Erasmus+ :この計画の目的は欧州の全分野の教育における流動性と連携を促進し、教育機関のさらなる発展に貢献することである。Erasmus+では一般教育、職業教育、及び青少年とスポーツの分野を対象とし、実施期間は7年間、およそ148億ユーロの予算が投入される。

Erasmus+はEU生涯学習計画(2007年-2013年)の後継として設立された。これまでのノンフォーマルな教育計画も Erasmus+に一本化される。欧州の4百万人以上の、生徒、学生、職業訓練生、教員、若いボランティアは、本計画が終了する2020年までの間に、留学のための奨学金や助成金を受け取ることができる。

<http://www.bmbf.de/press/3596.php>

③ 連邦報告書「研究と技術革新 2014」

ドイツ連邦内閣は、連邦報告書「研究と技術革新 2014」を承認した。ドイツ政府、経済界、学術界は研究開発のための支出を継続的に増加し、2012年には790億ユーロを超え過去最高となった。

2005年から2012年までの間に大学卒業者の数は19万8千人から31万人に増加し、これも過去最高を記録した。2012年に約3万5千人の外国人研究者がドイツの大学に従事し、2006年比で約60パーセント増加した。

連邦報告書「研究と技術革新 2014」はドイツの研究と技術革新に関して包括な情報を提供している。報告書及び詳細情報は以下から入手可能。

「研究と技術革新 2014」 http://www.bmbf.de/pub/bufi_2014.pdf

<http://www.bmbf.de/press/3611.php>

<http://www.bmbf.de/press/3378.php>

2 その他のニュース

① 外国の大学と合同で修了可能なドイツの大学

全課程を外国で修了することができるコースを設立し、またドイツと他国による合同の大学の設立に力を入れる大学が増えている。

ドイツ学術交流会 (DAAD) がブリティッシュ・カウンシルと共同で行った調査結果によれば、国境を越えた教育は国際的学術の発展に貢献し、教育インフラストラクチャーの改善を促し、発展途上国と新興国の学生の就職機会の増加へとつながっている。

DAAD とブリティッシュ・カウンシルの共同調査 “Impacts of transnational education on host countries”

https://be.daad.de/imperia/md/content/presse/studie_impacts_of_transnational_education.pdf

DAAD:

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2014/26519.de.html>

② ドイツにおけるボローニャ・プロセスの成果

15年前、ボローニャ宣言により欧州の高等教育制度の大改革が始まった。これに伴い、ドイツの大学の学位取得課程の約 87 パーセントが 2 学期制へ移行し、大学卒業生のおよそ 3 分の 1 が外国留学を経験した。

連邦教育研究省 (BMBF) は、ドイツの高等教育制度の改革を多数の方策により支援している。これには、教育の質保証、大学の透明性の推進、学業の経済的支援、ドイツ学術交流会 (DAAD) やフンボルト財団 (AvH) による流動性の促進、ドイツ大学長会議 (HRK) 関連のプロジェクト推進などが含まれる。

ドイツでのボローニャ・プロセス成果概要: <https://www.bmbf.de/de/7222.php>

<http://www.bmbf.de/press/3620.php>

③ ドイツ奨学金の支給者数が 42 パーセント増加

2013 年、ドイツの全大学において、19,740 人にドイツ奨学金が支給された。その数は 2012 年度より 5,844 人多く、約 42 パーセントの増加であった。企業・財団・個人などの民間からドイツ奨学金制度のために調達された金額は、昨年度だけでも約 2,100 万ユーロにのぼっている。月々 300 ユーロ支給される優秀者奨学金では、民間が 150

ユーロを負担し、残りの150ユーロは連邦政府が負担する。また最近では、ドイツの全大学の4分の3弱が、収入とは無関係に支給されるドイツ奨学金制度に参加している。

<http://www.bmbf.de/press/3608.php>

④ **2014年アレクサンダー・フォン・フンボルト・プロフェッサーシップ授賞式**

2014年アレクサンダー・フォン・フンボルト・プロフェッサーシップ授賞式がベルリンにて開催された。国外から6名の研究者が、フンボルト財団(AvH)および連邦教育研究省(BMBF)よりプロフェッサーシップが授与された。固体物理学者の高木英典博士も受賞者の1人で、シュトゥットガルト大学およびマックスプランク固体研究所において研究を行う。本プロフェッサーシップは全ての分野を対象とし、年間10名を上限に、ドイツ国外で活躍している国際的に優れた研究者に対し、ドイツで研究する機会を提供している。

<http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2014-13.html>

⑤ **2015年第1回アレクサンダー・フォン・フンボルト・プロフェッサーシップは女性研究者へ**

ドイツの最も栄誉ある国際研究賞であるアレクサンダー・フォン・フンボルト・プロフェッサーシップが3名の研究者に授与された。2015年第1回選考の受賞者は、フランスCNRSの文学研究者、米国カリフォルニア大学の細胞生物学者、米国コールド・スプリング・ハーバー研究所の植物遺伝学者であり、すべて女性研究者であった。受賞者は最大500万ユーロを贈呈され、ドイツの大学・研究機関で研究を行うこととなる。

<http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2014-16.html>

⑥ **グローバル・リサーチ・カウンシルを北京で開催**

第3回グローバル・リサーチ・カウンシル年次会合が、5月26日から28日まで北京において開催された。

グローバル・リサーチ・カウンシルは、世界の学術振興機関長による非公式の会合である。ドイツからはこれまでDFG(ドイツ研究振興協会)が参加している。

本会合では60以上の研究機関及び学術振興機関が、若手研究者育成及び科学論文へのオープンアクセスに向けた基盤整備の方策について議論した。



若手研究者育成については、早期独立、機会の平等、学際的共同研究の重要性が確認され、若手研究者支援の拡充計画について合意された。オープンアクセスについては、昨年の年次会合において計画案が合意されており、多くの機関がすでにオープンアクセスについて各機関の資金供与ガイドラインに取り入れ、対応を進めていることが公表された。研究成果の共有についてもガイドラインの策定を求めている。

来年の会合は、2015年5月に東京で開催される予定である。

http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2014/press_release_no_20/index.html

⑦ **ドイツ学術交流会 (DAAD) はロシア及び東ヨーロッパとの学術交流の意義を強調**

ロシアとウクライナの政治紛争は、政治、歴史、欧州の将来について全く異なる考え方が存在することを示唆している。ドイツ学術交流会 (DAAD) は、このような緊張状態の中で学術交流はソフト外交の重要な手段であると位置づけ、新しいロシア・東ヨーロッパ戦略において、民間レベルでの対話を今後も強化すると表明した。

<https://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2014/26675.en.html>

ぼんぼん時計第44号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49(0)228-375050 Fax +49(0)228-957777
www.jsps-bonn.de